

## 福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録【要旨】

■日時：令和2年10月9日（金）13：30～15：00

■場所：天神ビル11階11号会議室

- 議事 （1）福岡市の環境教育・学習関連施策について  
（2）成果指標の達成状況について（平成27年度～令和元年度）

「福岡市環境教育・学習計画（第三次）」で定めている9つの基本的方向に基づいて、令和元年度における福岡市の施策の実施状況等及び本計画の成果指標について報告を行い、今後の方向性について当該協議会委員からの意見を聴取。

<委員からの主な意見>

- 出前講座の取組みは非常に良いものだと思うが、受講後に環境行動の実践につながるよう、フォローアップを行うなどの仕組み作りが必要ではないか。
- 幼児や児童といったこども向けの施策は多くあるようだが、就労世代やシニア向けの施策についても充実させていく必要があるのではないか。
- 各環境団体の活動に行政側ももう少し目を向け、協力体制を構築していただきたい。
- 環境活動はイベント等への参加が大切なのではなく、日々の暮らしの中に環境行動を落とし込んでいくことこそが大切である。環境に気を付けて暮らしている方を増やしていくことが肝要である。
- 環境活動に関心のある方、環境に良いことをしようと考えている方でも、自分からわざわざ情報を取りにいったまで環境活動に参加しようとはしないということを、活動を通して実感している。そういった方に情報が届くようにすることも重要である。
- 環境活動に関心のある方が求める情報にアクセスしやすくなるよう、情報を集約したインターネットサイトがあれば良いのではないか。
- かねてよりの課題ではあるが、NPO団体を担う方の年齢層が上がっており、若い世代に参加してもらうためにはどうすれば良いかを模索している。
- これまでの活動の枠にとらわれず、たとえば野鳥の観察をした後に清掃活動などをすることにより、観察を活かし、活動の幅を広げることにつながっていると考え。
- NPO団体として行政には広報面でのバックアップをお願いしたい。
- 買い物袋の持参率は上昇しているが、100%に近づけていく努力が必要であり、店舗だけでそれを担うのではなく、市の方でも広報やバックアップをお願いしたい。
- スーパーなど店舗を持っている民間の力を活かし、例えばフードドライブの実施であるとか、市と協力して活動の支援を行えると考え。
- イベントPRについては、CMといった広報効果の高い手法でなくとも、SNSなどの

多様な媒体を利用していくことで効果的な発信ができるのではないか。

- 出前講座など各学校が取り組んだ環境活動を、一部の学校で完結させるのではなく、近隣の学校などに発信し、成果を公表することで活動の広がりが見えてくるのではないか。
- 個人的にも情報は自分から取りにいかねばつかめないと感じている。学校やこどもとの関わりを含め、小さなことからでも取り組んでいくことが大切だと思う。
- 環境に関する取組みを日常化させていくためのアプローチとしては熱中症や大雨、台風などの災害のテーマが効果的である。これらは命に係わる大切なことだと児童たちも認識していることから、なぜこういったことが起きるのかという観点から見ていくことができれば、日常の環境行動の重要性を認識し、取組みを日常化させることにつながるのではないか。
- すばらしい取組みであっても周知されていない状況であるのはもったいない。ホームページへの掲載だけでなく、区単位で地域や学校に対し、環境活動をしている人や団体の紹介や情報提供を行うといった、人同士のつながりを大切にした広報の手法が必要なのではないか。
- 環境問題は、ごみや二酸化炭素を減らしていくという点も当然大事であるが、感受性の豊かな幼児や児童の「環境を大切にしたい」という気持ちの部分について、地域や保護者を巻き込んで育てていく視点や取組みが大切なのではないか。
- 環境活動を始めたいと考えている方がまず足を運べる場や情報が集約されている場があるとよいのではないか。あすみんなも情報提供の場として協力できる。
- S D G s の中でも環境が大きな役割を占めているように、多くの N P O 団体の活動の中には環境に関連する活動があるように思う。環境を主たる活動としていない団体が環境に関する活動を行った際に「環境に良い活動である」と認める仕組みがあれば、より多くの団体を巻き込み、環境活動の幅を広げることにつながるのではないか。
- 一見環境とは無関係に見えることが実は環境と関連していることは多く、その視点は大切である。
- L I N E を活用し、団体の情報発信プラットフォームとして利用するといった取り組みも効果的ではないか。その中で、関心のある分野を選択すると対象の団体につながっていくといった仕組みもあると良い。
- 環境活動に取り組んでいる地域と N P O 団体のマッチングの担い手として行政の果たせる役割もあるのではないか。例えばラブアースなどの清掃活動の際に地域のみなさんに N P O 団体を紹介することにより、その後の活動の広がりにもつながるのではないかと考えている。